

DATA FILE



斜方晶系

名前	PERIDOT (ペリドット) / ペリドット
化学組成	(Mg,Fe) ₂ SiO ₄
色	緑色～黄色
光沢	ガラス光沢、脂肪光沢
蛍光	なし
条痕	白色
劈開	不明瞭
断口	貝殻状
硬度	6.5 ~ 7
比重	3.2 ~ 3.3

ペリドット

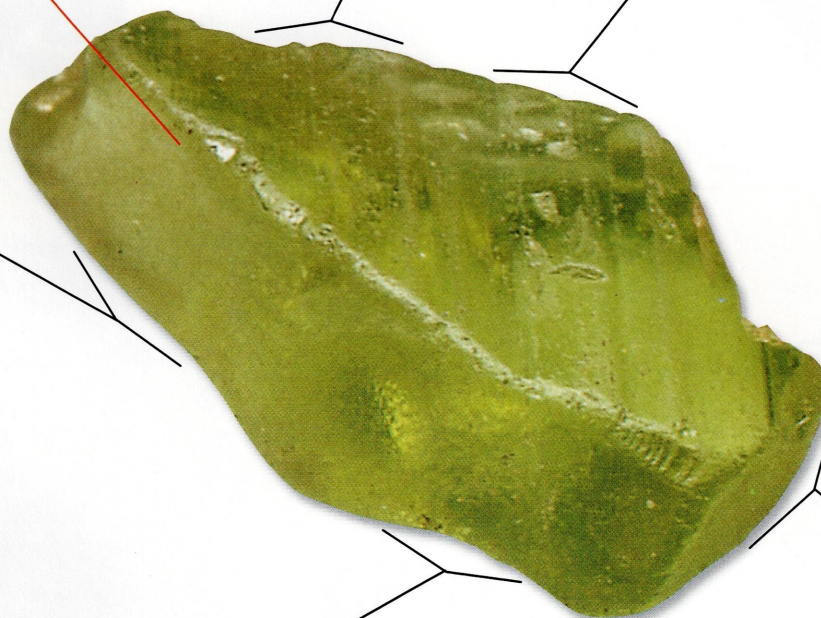
PERIDOT

含有する鉄の量が多いほど緑色が濃くなり、マグネシウムが多いものは黄色が強くなる。

素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。

アメリカのアリゾナ州で産出した半透明のペリドット。

結晶は緑色～黄色で、ガラス光沢か脂肪光沢を持つ。



劈開は不明瞭で、ハンマーでたたくと貝殻状の断口を示す。

「ペリドット」という名称は、かんらん石の宝石名として用いられる。



かんらん石の宝石名

8月の誕生石として知られているペリドットは、主要な造岩鉱物のひとつであるかんらん石の宝石名で、複屈折を持ち、結晶の美しさを活かすためにファセット・カットやオーバル・カット、長方形カット、正方形カット、カボション・カットなどが施される。一般的に緑色をしているが、マグネシウムの量が多くなると黄色が強くなり、「クリソライト」とも呼ばれる。ペリドットの多くは玄武岩や斑れい岩中の包有物として産するほか、シリカやマグネシウムを含んだドロマイト（苦灰石）が變成作用を受けてできることもあり、鉄を主体とする隕石の成分としても見つかる。なお、日本ではペリドットと呼べるような宝石級のは発見されていない。



▲錐面を持つ柱状結晶と、カッティングが施されたペリドット。



◀▲さまざまなカッティングが施されたペリドット。

主な産地



イブニングエメラルド

ペリドットは古くから知られていた宝石で、紅海に浮かぶエジプト領のセントジョーンズ島が、最も古い産地として記録に残っている。ここで見つかったペリドットは12世紀に十字軍によってヨーロッパにもたらされ、主に教会の装飾として利用された。ローマの人々は、この宝石が夜の闇でもエメラルドのような緑色に輝いて見えたことから「イブニングエメラルド」と呼んだという。

ローマ時代から存在するペリドットの標本は、現在では世界各地の博物館に展示されている。トルコのイスタンブールにあるトプカプ宮殿にはオスマン帝国時代のペリドットの宝飾コレクションがあり、アメリカのスミソニアン博物館にはミャンマーで産出した319カラットと289カラットのペリドットが保存されている。また、ドイツのケルン大聖堂では、200カラット以上の大きなペリドットを見ることができる。